

筑波花こう岩と人の営み

つくば市北部の旧筑波町には、花こう岩を使った石造物がたくさんあります。

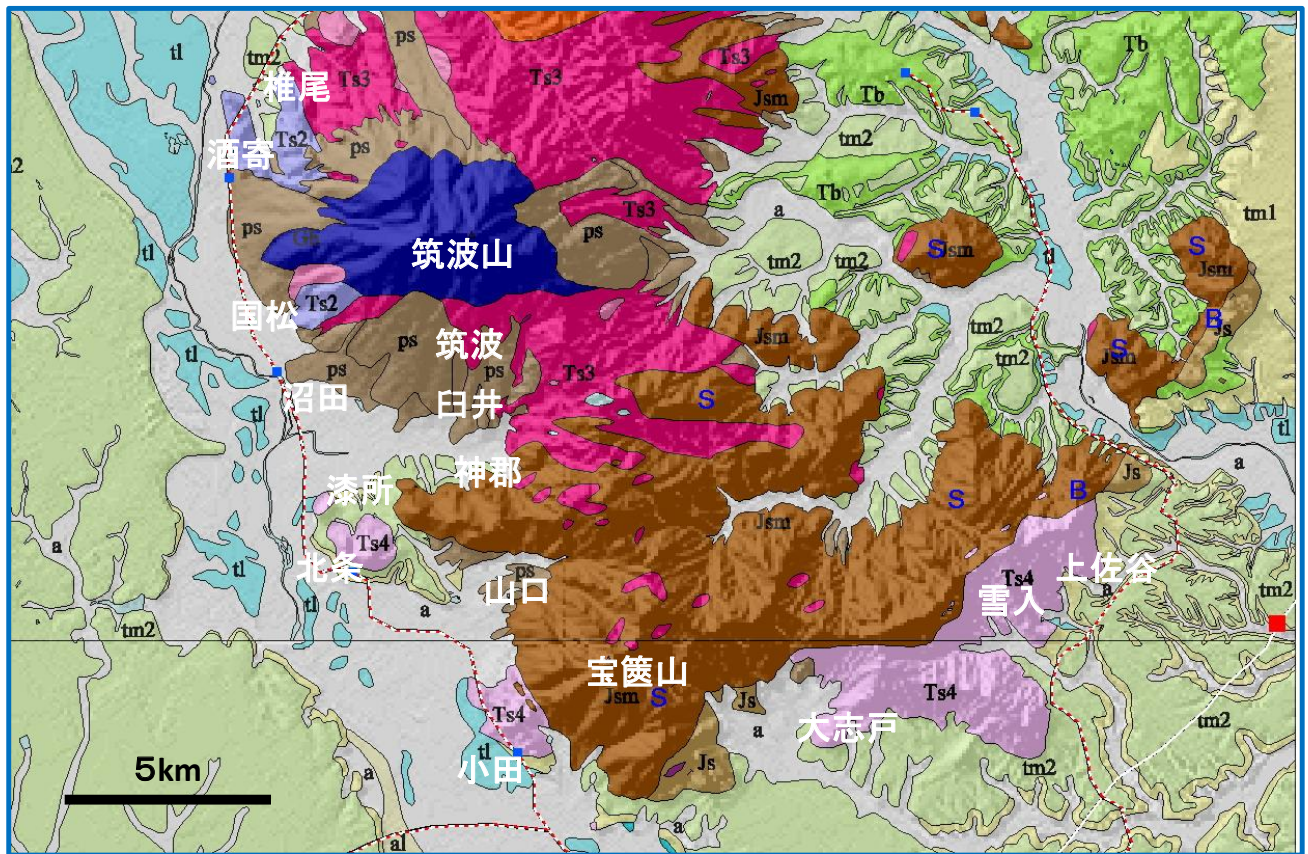
ほうきょうさん

筑波山と宝篋山に分布する花こう岩、北条の城山・小田の前山に分布する花こう岩を使って、鎌倉時代から石造物が作られており、この地は「関東での花こう岩石造物文化の発祥地」です。県指定文化財や市指定文化財が、たくさんあります。






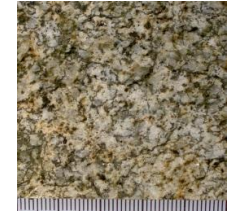

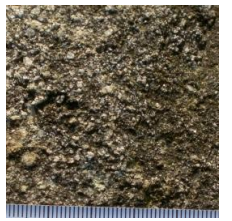
下図は、この地域の地質図です(高橋, 2007)。片状花こう岩を薄紫色で、斑状花こう岩を赤色で、中粒花こう岩を桃色で、細粒花こう岩を紅色で、示しています。なお、筑波山の中腹から山頂は、はんれい岩です。

大正7年から8年(1919)に土浦・岩瀬間が開通した筑波鉄道の目的の一つは、真壁の石材の搬出ルート短縮することでした。廃線後は、「つくばりんりんロード」になりました。

本文p. 183-189に関連記事があります。



筑波山とその周辺の地質ガイド(高橋, 2007)より抜粋・加筆

<p> Ts2 筑波花こう岩2 片状黒雲母トータル岩</p> <p>片状花こう岩 線状構造がある</p>  <p>50mm</p>	<p> Ts3 筑波花こう岩3 斑状黒雲母花こう閃緑岩</p> <p>斑状花こう岩 長石の大きな斑晶がある</p>  <p>50mm</p>	<p> Ts4 筑波花こう岩4 中粒白雲母黒雲母花こう岩</p> <p>中粒花こう岩 粒径は1~5mm</p>  <p>50mm</p>	<p> Ts5 筑波花こう岩5 細粒花こう岩類</p> <p>細粒花こう岩 粒径は1mm以下</p>  <p>50mm</p>
---	--	---	---

1) 産総研 地圏資源環境研究部門

CHO Akio (2014) Tsukuba granites and stone aculptures in Tsukuba town.

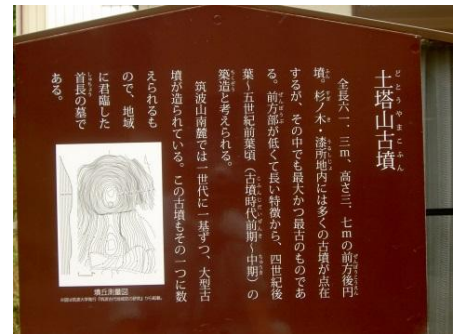
へんじょう 片状花こう岩 ・ はんじょう 斑状花こう岩

山口2号墳の石室に、花こう岩も使われています。
山口2号墳を外から 山口2号墳の内側



筑波大学(1981):筑波古代地域史の研究,より

土塔山古墳
漆所 細粒花こう岩



片状花こう岩を使った石造物

性山寺の常夜燈

国松 建立年不明



国松に残る残念石
石割の矢穴跡が残る。



臼井に残る残念石
石割の矢穴跡が残る。



斑状花こう岩を使った石造物

飯名神社の鳥居

臼井 平成24年(2012)修復



つくば道 一の鳥居

筑波 宝暦9年(1759)



六所皇大神宮の旧鳥居

臼井 建立年不明



筑波道の道標の台

北条 寛政10年(1798)再建



蚕影神社の鳥居と常夜燈

神郡 常夜燈 文政8年(1825)



普門寺の常夜燈

神郡 弘化3年(1846)



中粒花こう岩を使った石造物

ひょうが
日向廃寺の礎石

北条 平安末～鎌倉時代



市指定史跡

熊野神社の鳥居

北条 寛永13年(1636) 県内最古級



城山

北条 戦国時代



城山の城は、平安時代に平維幹によって作られた「多気山城」であると伝えられていました。しかし、戦国時代の末期に、高い動員力を有した組織が、純軍事的な理由で短期に築城した城であるとも言われています。筑波町史編集委員会編(1983):中世城郭遺構調査中間報告書「城山」より

たきたろうよしもと
多気太郎義幹之墓

北条 鎌倉時代



西の市の神(左)

東の市の神(右) 北条



露磐石

北条 奈良時代



平沢官衙と対をなす寺院の遺物と想定されています。

八坂神社の五輪塔

北条 天文6年(1537)



県指定文化財

普門寺の九重層塔

神郡 慶長(1600年頃)



県指定文化財

細粒花こう岩を使った石造物

「茨城百景筑波山」の石碑(左)

沼田 昭和25年(1950)



性山寺山門の石碑

国松 寛政6年(1794)

